

中学校 A

感染症対策を踏まえた体育学習

森田 勇輝 (千葉)
平田 義人 (松戸)

尾上 雄作 (船橋)
志籐 祐介 (習志野)

松田 勝哉 (市川・浦安)
桃川 聡子 (八千代)

1 はじめに

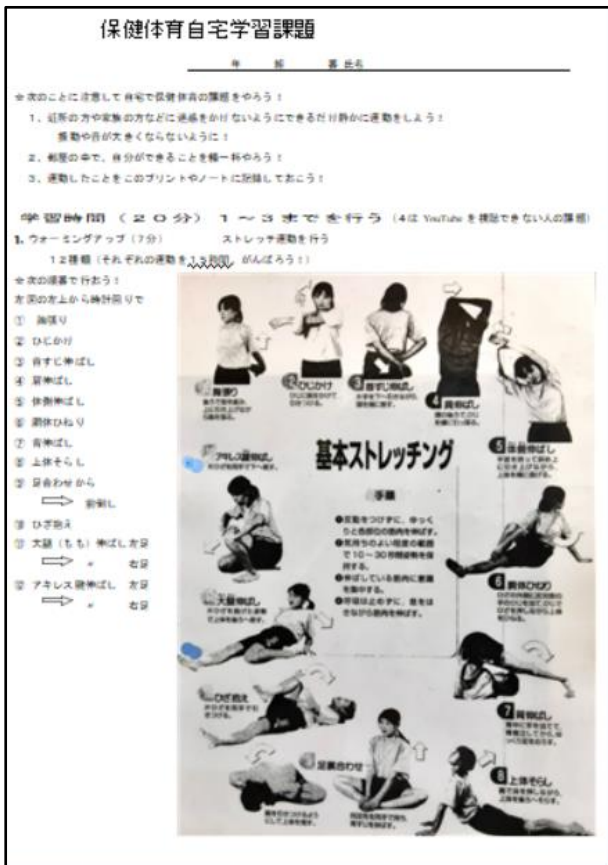
昨年度末より全世界に猛威を振るい、現在も収束の目途が立たない新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、日本においても全国一斉休校の措置がとられた。期間としては、地域によって多少の違いがあるものの、3月上旬～5月末までという約3ヶ月間であった。その期間、学校現場では児童生徒の学習を保証するために、各教科のオンライン学習や課題作成など、様々な取り組みが行われた。そこで今年度は研究の方向性として、休校期間、中学校の保健体育科としてどのような取組がされていたかについて研究を進めることとした。また、学校再開後の授業で行った具体的対策や年間指導計画の見直しなどにも触れていくこととした。

2 休校期間中の課題

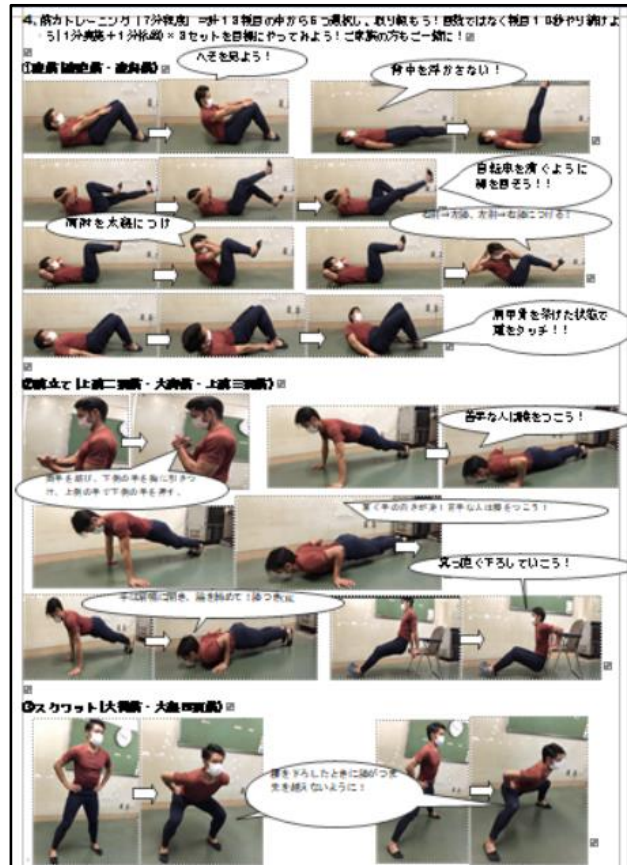
各市や学校ごとに多少の違いがあるものの、大きく分けて ICT を活用した学習と課題を与えて生徒が作成するといったものがあつた。以下に具体的な例を挙げながら紹介する。

(1) ICT 学習

各学校の HP にストレッチや筋力トレーニングの方法を載せ、自宅でも生徒が容易に取り組めるようにした。取り組んだ内容や時間等を記録し、外出が制限されるなか、体力低下が懸念されていたことの対策として取り組ませていた。



ストレッチ見本



筋力トレーニング課題

(2) 課題作成

今年日本で開催予定であった、オリンピック・パラリンピックについて生徒が自らテーマを決めて、レポートにまとめるといった課題を出した学校もあった。オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの意義やスポーツへの主体的な参画、多様な国や地域の文化の理解等に繋げることをねらいとし、学校再開後に廊下に掲示することや発表の場を設けた。

3 学校再開後の授業

(1) 年間指導計画の見直し

感染症対策を踏まえた段階的な授業展開、また未履修のないように年間指導計画を見直した。その際に意識した項目を以下に挙げる。

- ・生徒の運動不足を考慮し、体づくり運動の時間確保



サーキットトレーニング①ラダートレーニング



サーキットトレーニング②もも上げ

- ・夏休み前までの単元は、個人種目や密にならない種目（ネット型、陸上競技、ダンス等）
- ・道具を共有しない単元（共有する場合、授業前後に手洗いの徹底と共有物の消毒）

(2) 授業中の対策

- ・授業前後に手洗いの徹底
- ・共有物の消毒
- ・原則マスク着用
- ・密にならないように間隔をとっての授業展開
- ・体育館使用時の換気
- ・夏場の熱中症対策の水分補給
- ・フェイスガードの活用（剣道の単元等）

4 おわりに

(1) 成果（○）と課題（△）

- 教師も生徒も感染症に対する意識（対策）について変わった
- 教師側の体育学習の工夫（場の工夫、補助運動、話し合い活動等）
- △活動時間の減少（感染症対策の導入により）
- △感染状況に対応した年間指導計画による弊害（未履修にならない計画）
- △話し合い活動の方法（密にならない工夫の必要性）

(2) 今後の方向性

上記のように、各自治体や学校により今年度様々な取り組みが行われているが、やはり課題が多く残っていることが現状である。今後は上記の課題を踏まえた上で未履修がないように状況に応じて年間計画の見直しを行う必要がある。